

### 背景及び問題点の抽出と目的設定



### 土佐山田町の今後の計画方針

**土佐山田町マスタープラン**

土佐山田町の都市計画を定めたマスタープラン。土佐山田町の将来像などが提唱されている。土佐山田町の将来像は「人・自然・文化が豊かな暮らしを織りなす定住都市」と構想されている。また、旭町は山田地区の一部として中心市街地の活性化、えびす商店街を中心ににぎわいのある市街地の形成、人にやさしい市街地環境の整備、市街地周辺農業の再構築などが整備方針とされている。

数年以上経過したが現状は・・・

まち全体が衰退（人口・経済力が減少）

### 土佐山田町の発展

交通の要所・ベッドタウンとして栄える

**発展要素**

**A. 交通の要所**  
高知市と香川県・徳島県を連絡する国道32号線、国道195号線などの広域幹線道路およびJR四国の土讃線が通過するなどの交通要所である

**B. 高知市のベッドタウン**  
高知市内より自動車で30分の距離にあり、高知市を中心とする広域都市計画地域に属している。  
土佐山田町の調査によると土佐山田町常住者の5人に1人が通勤或いは通学のために高知市へ移動している。  
高知市のベッドタウンとしての側面も持ち、結びつきが強いことが伺える。

取り巻く環境の変化

### 現在の土佐山田町

- 人々の交流、特に世代間交流が乏しい  
まちの活性化へと期待された大学開学だが、学生がまちに望むものは少なく、若者との交流が乏しい。
- 森林の保水能力および土壌流出防止能力の低下  
人工林の放棄により、森林の保水能力および土壌流出能力が低下。県職員によるとこれに起因すると思われる河川の濁水問題、土砂崩れの多発などの2次的環境問題と繋がっている。
- えびす商店街の衰退  
まちの中心商店街であるえびす商店街は約3割がシャッター商店街となっている。
- 一部の人のみが行う文化振興  
まちの文化振興は行われているものの、関係団体が行う文化保全のみであり、一般の住民が文化振興に関与することが日常少ない。ゆえに新しいまちのアイデンティティが必要である。

### 本研究の目的

土佐山田のまちを豊かにしたい！！そのためには、人々の心が必要！  
まちの問題認識を共有しながら問題解決に取り組む必要がある

### 牛と林業が拓く人・自然・文化の再興

**土佐牛とは**

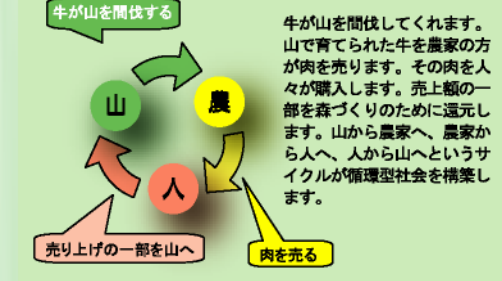
杉林で牛を山地酪農方法を使い人の手をほとんど借りずに林業の間伐と肉牛の出荷を行う新産業。維持の手間が掛からない土佐赤牛を使用し、地域ブランド化を目指します  
近年、里山放棄が山の自然循環を壊しています。そこで登場するのが山田牛です。山田牛は間伐材や下草を食べ、糞をします。糞は土に帰り、新たな植生を育成します。また、山田牛は空気と水を守る豊かな森に包まれています。これが私たちの目指す食料環境型社会です。山の香りを味わってみませんか。

- 1ha-2頭が酪農の基本スペース  
→ 芝よりエサの少ない杉林に放つため、1ha-1頭を提案。
- 一般の牛の育成可能な斜面は30°  
→ ほとんどの牛は小さい頃から斜面で育てれば急斜面でも育成が可能。
- 牛が一日に食べる量は5kg  
→ 間伐材や下草刈りへ大きな効果
- 牛は下草も間伐材も食べる。  
→ ある程度えさをやらないと今度は杉まで齧ろうとする。
- えさに関しては自然放牧+多少の管理が必要

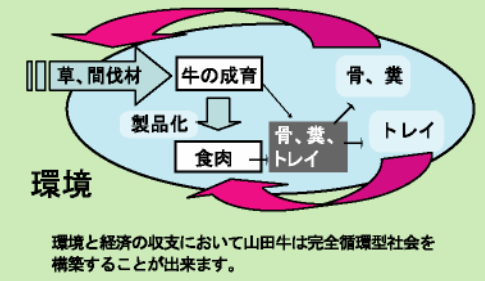
**ポイント**

- 1). 牛は草木を食べる。
- 2). 間伐の手間を省く役目。
- 3). 山田の知名度up → 山(牛を育てる)田(昔の田には牛が使われていた)
- 4). Fig1の環境経済における循環型社会への条件をクリア。

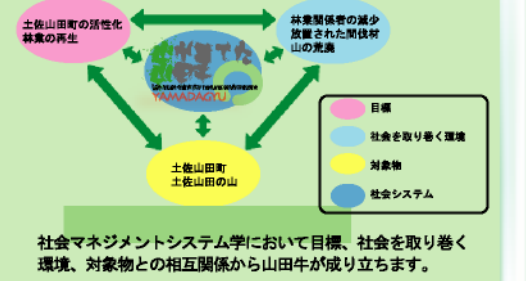
### POINT 1 : 循環型社会へ



### POINT 2 : 環境と経済の収支



### POINT 3 : 社会マネジメントシステム学



**概要** 高知県香美市は、商店街、地域産業の衰退が大きな問題となっている。そのため、高知工科大学が1997年につくられたものの、学生と住民との距離は遠く、効果的な改善には至っていないのが現状である。そこで私達は、学生と住民の距離を縮め、高齢者の力と学生の力を合わせることで、香美市の活性化と発展を図りたいと考え、高齢者と学生が共生できるまちづくり=Universal townの提案を行う。

○上村 彩 河端 文人 梅津 靖弘 田中 佑紀  
(高知工科大学工学部社会システム工学科)

## ■ 問題解決アプローチ

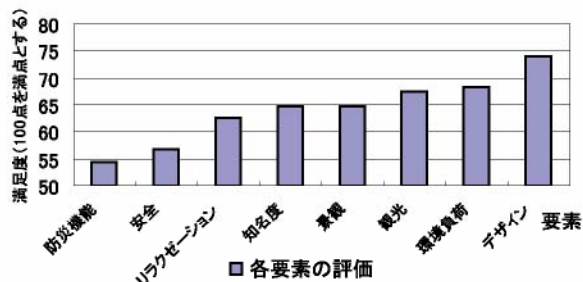
私たちは高知県馬路村からその成功事例を評価し、地場産業育成方法を考えました。

■ 全ての項目ごとに合計点を算出し100点満点に換算

■ 一項目5点×6人=30点

■ 30点×12項目=360点

馬路村の調査した事業における各要素の評価



馬路村の政策はデザインが優れている！  
デザインの統一化はブランド化に繋がる！

## ■ 現在の土佐山田町

### 広報活動

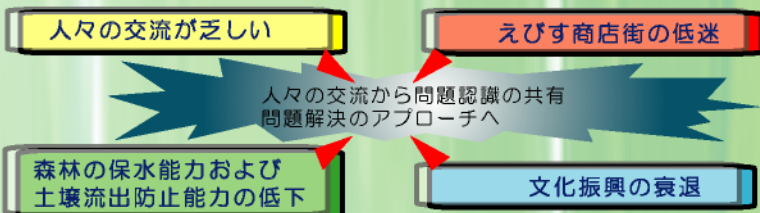
電気を使わないで間伐材の処理、牛の糞が肥料になる

やまがそだてた「やまだぎゅう」

自然があることを感じることが出来る

牧場・乳搾りの体験など

- 環境負荷:資源の無駄な消費をしません。
- デザイン:みんなに親しみやすいデザインにします。
- 景観:地域性を表現します。
- 観光:地域性をアピールします。



## 香美市街地におけるアプローチ例

香美市街地を総合的に発展させる方法を模索する。地域住民と高知工科大学の学生の行動圏の違いにも着目した。それぞれのゾーンの道は安全を考慮し歩行者天国にする。各ゾーンがイベントを企画する。条件として住民と学生の交流が可能であるもの。(例 Communicationゾーンで飲み会、Playゾーンでボーリング大会、Viewゾーンで植樹、Developゾーンで福引等)

このような誰もが使える町と、そこに根ざした武器(今回は山田牛)があれば町に活気が生まれてくるのではないかと。

## ■ 将来の香美市への提言

世界に古代文明は数あれど数千年も同じ土地で文明が栄えてきたのは日本だけである。日本人はこれまで「自然」と共存してきたのだ。「自然」が泣くときは人も泣き、「自然」が笑うときは人も笑ってきた。その共存という考え方はいつしか支配へと変わっていた。今現在、「人間」と「自然」の本来のカタチが自然から求められているのではないだろうか？私達は「山田牛」を通して人々に「人間」と「自然」の本来のカタチを知ってもらいたい。

-We must think for natural environment-